

ペグイントロン 皮下注用 50 μ g/0.5mL 用

【この薬は？】

販売名	ペグイントロン皮下注用 50 μ g/0.5mL 用 Pegintron Powder for Injection
一般名	ペグインターフェロン アルファ-2 b (遺伝子組換え) Peginterferon Alfa-2b (Genetical Recombination)
含有量 (1バイアル中)	74 μ g

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、インターフェロン製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、リバビリンと併用することにより、C型肝炎ウイルス（HCV）が増えるのを抑えたり、体がウイルスを排除しようとするのを助けて、肝臓の機能を改善させます。また、からだの免疫力を高め、がん細胞を死滅させるのを助ける働きがあります。
- ・次の目的で、医療機関で使用されます。
 1. リバビリンとの併用による次のいずれかのC型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善
 - (1) 血中HCV RNA量が高値の患者
 - (2) インターフェロン製剤単独療法で無効の患者又はインターフェロン

製剤単独療法後再燃した患者

2. リバビリンとの併用によるC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善

3. 悪性黒色腫における術後補助療法

- ・ C型慢性肝炎およびC型代償性肝硬変の場合、リバビリンと併用して使用されます。国内において、この薬を単独で使用した時の有効性および安全性は確立していません。
- ・ この薬は肝硬変自体を治療するものではありませんので、肝硬変に対する治療もあわせて行われます。また、この薬でC型肝炎ウイルスに対する効果があった場合でも、肝硬変に対する治療が続けられます。
- ・ 悪性黒色腫における術後補助化学療法の場合、ステージⅢの人に使用されます。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- この薬により間質性肺炎、自殺企図（自殺を企てること）があらわれることがあります。これら副作用の発現の可能性について十分理解できるまで説明を受けてください。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・ 過去にペグイントロンに含まれる成分または他のインターフェロン製剤で過敏症を経験したことがある人
 - ・ 過去にワクチンなどの生物学的製剤で過敏症を経験したことがある人
 - ・ 小柴胡湯（しょうさいことう）を飲んでいる人
 - ・ 自己免疫性肝炎の人
 - ・ 非代償性肝疾患の人
 - ・ C型慢性肝炎およびC型代償性肝硬変の場合、妊婦または妊娠している可能性がある人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・ C型慢性肝炎およびC型代償性肝硬変の場合、使用開始前のヘモグロビン濃度が14g/dL未満、好中球数が2,000/mm³未満、あるいは血小板数が120,000/mm³未満の人
 - ・ C型慢性肝炎およびC型代償性肝硬変の場合、女性
 - ・ 中枢・精神神経障害がある人または過去に中枢・精神神経障害があった人
 - ・ 高度の白血球減少、好中球減少、あるいは血小板減少がある人
 - ・ 心臓に障害がある人または過去に心臓に障害があった人
 - ・ 自己免疫疾患の人またはその素因がある人
 - ・ 甲状腺機能異常または過去に甲状腺機能異常があった人
 - ・ アレルギー素因がある人
 - ・ 高血圧の人
 - ・ 糖尿病の人または過去に糖尿病になったことがある人、血縁に糖尿病になった人がいる人、耐糖能障害のある人
 - ・ けいれん発作のある人
 - ・ 過去に間質性肺炎になったことがある人
 - ・ 慢性腎不全の人または腎臓に障害（クレアチニンクリアランスが50 mL/分以下）がある人

- ・悪性黒色腫の場合、腎臓に中等度以上の障害のある人
 - ・肝臓に重篤な障害がある人
 - ・悪性黒色腫の場合、妊婦または妊娠している可能性のある人
 - ・授乳中の人
- C型慢性肝炎およびC型代償性肝硬変の場合、避妊の必要性について、よく説明を受けてください。なお、リバビリンの患者向医薬品ガイドもあります。
- この薬には併用してはいけない薬[小柴胡湯(しょうさいこう)]や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- この薬の使用を始める前に血液の検査が行われます。
- この薬を使用したときに過敏症が出ないかを予測するために、プリック試験または皮内試験が行われることがあります。

【この薬の使い方は？】

- ・この薬は注射薬です。

●使用量および回数

あなたの体重や症状などにあわせて医師が決め、医療機関において注射されます。

[C型慢性肝炎およびC型代償性肝硬変]

	使用方法
リバビリンとの併用によるC型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善の場合	1回1.5 μ g/kgを週に1回皮下注射する。
リバビリンとの併用によるC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善の場合	1回1.0 μ g/kgを週に1回皮下注射する。

- ・リバビリンと併用して使用されます。
- ・使用開始前のヘモグロビン濃度が14g/dL未満、好中球数が2,000/mm³未満、あるいは血小板数が120,000/mm³未満の人、高齢の人および女性は、はじめの2週間は原則として入院します。
- ・C型慢性肝炎及びC型代償性肝硬変の場合、通常の使用期間は48週間です。なお、この薬を24週間以上使用しても効果が得られない場合は、使用が中止されることがあります。
- ・白血球数、好中球数、血小板数またはヘモグロビン濃度の低下が認められた場合には、この薬またはリバビリンの使用量が変更されることがあります。

[悪性黒色腫]

8週目までは1回6 μ g/kgを週に1回、9週目以降は1回3 μ g/kgを週1回皮下注射する。

- ・副作用により、この薬を休薬、減量または中止することがあります。
- ・他の抗悪性腫瘍剤との併用については、有効性および安全性は確立していません。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

[C型慢性肝炎およびC型代償性肝硬変、悪性黒色腫共通]

- ・この薬の使用初期には、一般に発熱があらわれます。高熱になることもあるので、そのような場合には電解質を含む水分補給等をしてください。
- ・骨髄機能抑制（出血しやすい、青あざができる、からだがだるいなど）、肝機能障害、甲状腺機能障害があらわれることがあるので、投与開始前および投与中は定期的に検査が行われます。
- ・この薬は週1回の注射であり、体内に長く保持されるため、**副作用は？**に書かれている症状があらわれた場合には、ただちに医師または薬剤師に連絡してください。
- ・めまい、錯乱（意識の混乱）、傾眠（眠気でぼんやりする）、疲労があらわれることがあるので、自動車の運転、機械の操作を避けてください。
- ・間質性肺炎があらわれることがあるので、発熱、から咳、息苦しいなどの呼吸器症状の異常があらわれた場合には、胸部X線等の検査が行われます。特に過去に間質性肺炎になったことのある人では、定期的に聴診、胸部X線等の検査が行われます。
- ・この薬により、抑うつ気分になったり、死んでしまいたいと感じたりすることがあります。また、気分がたかぶったり、攻撃的になり、中には他人に対して危害を加えたりすることもあります。患者やその家族の方は、このような症状をはじめ、気分がたかぶる、眠れない、不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、などの症状があらわれる可能性があることを十分に理解できるまで説明を受け、これらの症状があらわれた場合にはただちに医師に連絡してください。
- ・溶血性尿毒症症候群、血栓性血小板減少性紫斑病があらわれることがあるので定期的に血液検査及び腎機能検査が行われます。
- ・狭心症、心筋症、心不全、心筋梗塞があらわれることがあるので、定期的に心電図検査が行われます。
- ・網膜症があらわれることがあるので、定期的に眼底検査が行われます。視力低下、視野中の暗転があらわれた場合にはただちに医師に連絡してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

[C型慢性肝炎およびC型代償性肝硬変]

- ・この薬はリバビリンと一緒に使用する薬です。
- ・この薬を48週を超えて使用した場合の安全性および有効性は確立していません。
- ・ヘモグロビン減少、白血球減少、好中球減少および血小板減少があらわれることがあるので、この薬の使用を始めて8週間は1週間に1度、その後は4週間に1度血液検査が行われます。また12週間に1度甲状腺機能検査が行われます。
- ・避妊の必要性について、よく説明を受けてください。なお、リバビリンの患者向医薬品ガイドもあります。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
- ・授乳を避けてください。

[悪性黒色腫]

- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
肺線維症 はいせんいしょう	咳、息切れ、息苦しい、発熱
肺水腫 はいすいしゅ	息苦しい、息をするときゼーゼー鳴る、咳、痰、呼吸がはやくなる、脈が速くなる、横になるより座っているときに呼吸が楽になる
抑うつ・うつ病 よくうつ・うつびょう	気分がゆううつになる、悲観的になる、思考力の低下、不眠、食欲不振、体がだるい、うつ状態が長期間つづいて日常生活に支障がでる
自殺企図 じさつきと	自殺をするために実際に行動をおこす
躁状態 そうじょうたい	疲れや眠気を感じにくい、自信過剰になる、口数が多くなる、興奮しやすくなる、浪費が目立つ、行動的になり過ぎる
攻撃的行動 こうげきてきこうどう	周囲に暴言を吐いたり暴力をふるう、器物を破壊する
貧血 ひんけつ	体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ
無顆粒球症 むかりゆうきゆうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
白血球減少 はっけつきゆうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
顆粒球減少 かりゆうきゆうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
再生不良性貧血 さいせいふりょうせいひんけつ	めまい、体がだるい、息切れ、動悸、あおあざができる、出血が止まりにくい、発熱、寒気、喉の痛み
汎血球減少 はんけつきゆうげんしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み
意識障害 いしきしょうがい	意識の低下、意識の消失
失神	短時間、意識を失い倒れる

重大な副作用	主な自覚症状
しっしん	
見当識障害 けんとうしきしょうがい	自分のいる場所や時間、自分や人の名前などがわからなくなる
難聴 なんちょう	人の声、音が聞こえづらい、耳鳴り、耳がつまる感じ
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がびくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
せん妄 せんもう	軽度の意識混濁、興奮状態、幻覚、妄想
錯乱 さくらん	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない
幻覚 げんかく	実際には存在しないものを存在するかのよう感じる
妄想 もうそう	根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない
昏迷 こんめい	無言、無表情、無意志
統合失調症様症状 とうごうしっちょうしょうようしょうじょう	幻聴（幻声）、妄想、周囲の世界が変わったように感じる、思考や話の内容にまとまりがなくなる、自分の考えが周囲に知れ渡っているように感じる
認知症様症状（特に高齢者） にんちしょうようしょうじょう（とくにこうれいしゃ）	記憶力の低下、計算ができなくなる、時間や場所がわからなくなる
興奮 こうふん	口数が多くなる、大声で叫ぶ、周囲に暴力をふるう、器物を破壊する、些細のことで怒る
自己免疫現象 じこめんえきげんしょう	<p>[甲状腺機能異常としてあらわれる場合] 疲れやすい、まぶたが腫れぼったい、寒がり、体重増加、いつも眠たい、便秘、かすれ声、脱毛、動悸、脈が速くなる、手指のふるえ、体重減少、汗をかきやすい、イライラする、微熱</p> <p>[肝炎としてあらわれる場合] 体がだるい、吐き気、嘔吐、食欲不振、発熱、上腹部痛、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる</p> <p>[溶血性貧血としてあらわれる場合] 体がだるい、めまい、息切れ、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる</p> <p>[特発性血小板減少性紫斑病としてあらわれる場合]</p>

重大な副作用	主な自覚症状
	<p>鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい</p> <p>[潰瘍性大腸炎としてあらわれる場合] 便に粘液や血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、腹痛、下痢、体重が減る</p> <p>[関節リウマチとしてあらわれる場合] 関節の痛みがひどくなる、朝の手のこわばりがひどくなる</p> <p>[乾癬としてあらわれる場合] 鱗のような白いフケを伴う、少し盛り上がった赤い斑点、かゆみと乾燥感、頭、脛や肘に発疹が出るが多い</p> <p>[全身性エリテマトーデスとしてあらわれる場合] 環状の赤い発疹、かさかさした角質を伴う赤い発疹、関節の痛み、発熱、体がだるい</p> <p>[血管炎としてあらわれる場合] 発熱、手足のしびれ、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍</p> <p>[フォークト・小柳・原田病としてあらわれる場合] 目の充血、光がないのにチラチラ見える、視野の中に見えない部分がある、視力の低下、耳鳴り、耳が聞こえにくい、めまい、頭痛、脱毛、白毛、白斑</p> <p>[インスリン依存型糖尿病としてあらわれる場合] 体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える</p>
<p>溶血性尿毒症症候群（HUS） ようけつせいにようどくしょうしょうこうぐん（エイチユーエス）</p>	<p>尿量が減る、むくみ、体がだるい、意識の低下、意識の消失、けいれん、深く大きい呼吸、食欲不振、紫色のあざ</p>
<p>血栓性血小板減少性紫斑病（TTP） けっせんせいけっしょうばんげんしょうせいしはんびょう（ティーティーピー）</p>	<p>発熱、体がだるい、あおあざができる、鼻血、歯ぐきの出血、尿量が減る、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、意識の低下</p>

重大な副作用	主な自覚症状
糖尿病 とうりょうびょう	体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える
重篤な肝障害 じゅうとくなかんしょうがい	体がだるい、吐き気、食欲不振、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、意識の低下
急性腎障害等の重篤な腎障害 きゅうせいじんしょうがいとこのじゅうとくなじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい、高血圧
ショック ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
心筋症 しんきんしょう	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加
心不全 しんふぜん	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加
心筋梗塞 しんきんこうそく	しめ付けられるような胸の痛み、息苦しい、冷汗が出る
狭心症 きょうしんしょう	しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、冷汗が出る、あごの痛み、左腕の痛み
不整脈（心室性不整脈、高度房室ブロック、洞停止、高度徐脈、心房細動） ふせいみやく（しんしつせいふせいみやく、こうどぼうしつブロック、どうていし、こうどじよみやく、しんぼうさいどう）	めまい、動悸、脈が遅くなる、気を失う、脈がとぶ、胸の不快感、立ちくらみ、息切れ、意識の低下、意識の消失
消化管出血（下血、血便等） しょうかかんしゅつけつ（げけつ、けつべんとう）	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、黒い便が出る、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）
消化性潰瘍 しょうかせいかいよう	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る
小腸潰瘍 しょうちょうかいよう	腹痛、下痢、便に血が混じる（暗赤色）
虚血性大腸炎 きょけつせいだいちょうえん	急激な腹痛、血が混ざった下痢
呼吸困難 こきゅうこんなん	息苦しい、息切れ
喀痰増加 かたんぞうか	痰が増える
脳出血 のうしゅつけつ	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくく

重大な副作用	主な自覚症状
	なる、突然言葉が出にくくなる
脳梗塞 のうこうそく	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる
敗血症 はいけつしょう	発熱、寒気、脈が速くなる、体がだるい
網膜症 もうまくしょう	視力の低下、視野が狭くなる、視野の中に見えない部分がある、物がゆがんで見える
中毒性表皮壊死融解症 (TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう (テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (ステューブンス・ジョンソン症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (ステューブンス・ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、体がだるい、突然の高熱、寒気、出血が止まりにくい、出血しやすい、顔や手足の筋肉がぴくつく、疲れやすい、寒がり、体重増加、体重減少、汗をかきやすい、微熱、体がかゆくなる、体重が減る、むくみ、けいれん、急激に体重が増える、冷汗が出る、体重の増加、脱力感
頭部	気分がゆううつになる、悲観的になる、思考力の低下、不眠、うつ状態が長期間つづいて日常生活に支障がでる、自殺をするために実際に行動をおこす、疲れや眠気を感じにくい、自信過剰になる、口数が多くなる、興奮しやすくなる、浪費が目立つ、行動的になり過ぎる、周囲に暴言を吐いたり暴力をふるう、器物を破壊する、めまい、頭痛、意識の低下、意識の消失、短時間、意識を失い倒れる、自分のいる場所や時間、自分や人の名前などがわからなくなる、一時的にボーっとする、軽度の意識混濁、興奮状態、妄想、注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、実際には存在しないものを存在するかのようを感じる、根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない、無意志、周囲の世界が変わったように感じる、思考や話の内容にまとまりがなくなる、自分の考えが周囲に知れ渡っているよ

部位	自覚症状
	うに感じる、記憶力の低下、計算ができなくなる、時間や場所がわからなくなる、大声で叫ぶ、周囲に暴力をふるう、些細なことで怒る、いつも眠たい、脱毛、イライラする、白毛、気を失う、立ちくらみ、突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然の頭痛、突然のめまい
顔面	鼻血、無表情、顔面蒼白（そうはく）、あごの痛み
眼	幻覚、まぶたが腫れぼったい、白目が黄色くなる、目の充血、光がないのにチラチラ見える、視野の中に見えない部分がある、視力の低下、視野が狭くなる、物がゆがんで見える、目の充血やただれ
耳	耳鳴り、人の声、音が聞こえづらい、耳がつまる感じ、幻聴（幻声）、耳が聞こえにくい
口や喉	咳、痰、喉の痛み、歯ぐきの出血、無言、かすれ声、吐き気、嘔吐、喉が渇く、水を多く飲む、血を吐く、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、痰が増える、突然の嘔吐、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、唇や口内のただれ
胸部	息切れ、息苦しい、息をするときゼーゼー鳴る、呼吸がはやくなる、横になるより座っているときに呼吸が楽になる、動悸、深く大きい呼吸、しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、胸の不快感
腹部	食欲不振、上腹部痛、腹痛、お腹が張る、胃がむかむかする、急激な腹痛
手・足	脈が速くなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、手指のふるえ、関節の痛みがひどくなる、朝の手のこわばりがひどくなる、関節の痛み、手足のしびれ、手足が冷たくなる、左腕の痛み、脈が遅くなる、脈がとぶ、突然片側の手足が動かしにくくなる、手足のこわばり
皮膚	あおあざができる、皮膚が黄色くなる、鱗のような白いフケを伴う、少し盛り上がった赤い斑点、かゆみと乾燥感、頭、脛や肘に発疹が出る事が多い、環状の赤い発疹、かさかさした角質を伴う赤い発疹、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍、白斑、紫色のあざ、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
筋肉	筋肉の痛み
便	便秘、便に粘液や血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、下痢、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、便に血が混じる、黒い便が出る、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、血便、便に血が混じる（暗赤色）、血が混ざった下痢
尿	尿の色が濃くなる、尿量が増える、尿量が減る、尿が赤褐色になる

【この薬の形は？】

販売名	ペグイントロン皮下注用 50 μ g/0.5mL用
性状	白色の粉末又は塊
形状	注射用粉末製剤（バイアル）
	

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ペグイントロン皮下注用 50 μ g/0.5mL用
有効成分	ペグインターフェロン アルファ-2 b（遺伝子組換え）
添加剤	ポリソルベート80、白糖、リン酸二水素ナトリウム二水和物、 無水リン酸一水素ナトリウム

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：MSD株式会社 (<https://www.msd.co.jp>)

MSDカスタマーサポートセンター

フリーダイヤル：0120-024-964

受付時間：9：00～17：30

（土日祝日・製造販売会社休日を除く）